

目 次			
ショウガに発生する ファイトプラズマによる病害	・・・ 1	遺伝資源収集・保存のためのラオス探索	・・・ 4
促成ピーマン類の コナカイガラムシ類に対する総合的防除体系	・・・ 2	ニラの葉温の違いと光合成速度	・・・ 5
ぶしゅかん・直七の青玉果長期貯蔵方法	・・・ 3	リン酸蓄積土壌におけるオオバの リン酸無施肥栽培	・・・ 6

ショウガに発生する ファイトプラズマによる病害



図 1 ほ場での発病株の様子

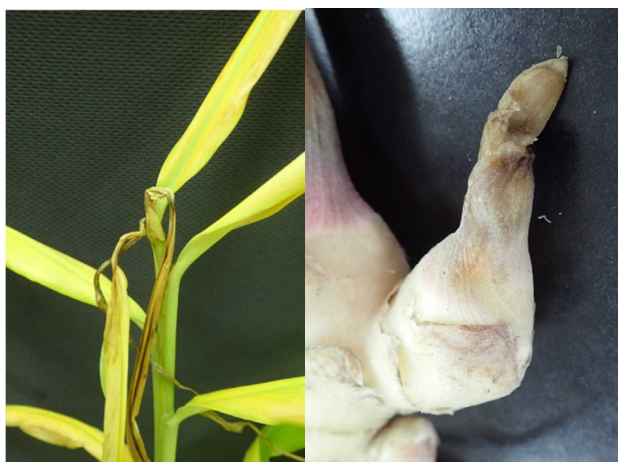


図 2 生長点の枯れ(左：茎、右：根茎)

以前から県内のショウガ産地において見られていた、生育中に茎や葉が黄化する症状について調べた結果、細菌の一種であるファイトプラズマが原因の赤枯病であることが分かりました。

本病では明らかとなっていませんが、一般的に、ファイトプラズマによる病害は特定のヨコバイ類によって媒介されます。

赤枯病は、生理障害や他病害と見分けが付きづらく、現場での診断が難しい病害であるため、高知県内のショウガ産地における赤枯病の特徴を調査しました。

現地での赤枯病の発生は7月中旬以降に増えてきます。赤枯病を発症したショウガ

は全体的に黄化し、周りのショウガが健全であるなかに点在していたので、遠くから見てもほ場内で目立っていました(図1)。茎葉では、生長点が黄化し、葉縁から黄化していました。種根茎と、種根茎に繋がる根茎ではしわが認められたり、高次根茎の生長部位が軟化し、枯れている株もありました(図2)。

これらの特徴は、ショウガに発生する立枯性の病害である青枯病、根茎腐敗病および立枯病の特徴とは異なるので、診断の際はぜひ参考にしてください。

(病理担当 林 一沙 088-863-4915)